

令和2年度病害虫予察情報・特殊報第1号

令和2年6月25日

鳥取県病害虫防除所

本県において、ツマジロクサヨトウの成虫及び幼虫が確認されたので特殊報を発表します。

1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)

2 対象作物 飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムなど

3 発生地域 県全域

4 発生経過

(1) 県東部に設置したツマジロクサヨトウ用フェロモントラップにおいて、令和2年6月12日、本種と疑われる成虫が発見された(写真1)。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、6月23日にツマジロクサヨトウの成虫であることが確認された。また、県西部のスイートコーンほ場において、本種と疑われる幼虫を発見し(写真2)、農林水産省神戸植物防疫所に確認を依頼した結果、本種の幼虫との回答があった。



写真1 フェロモントラップに捕獲された成虫

(2) 本種の幼虫は、令和元年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において国内で初めて確認された後、現時点(6月25日時点)までに29府県が特殊報を発表している。



写真2 スイートコーンほ場のツマジロクサヨトウ幼虫
中齢(体長:約12mm)

5 形態及び生態

(1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅に淡色斑と白斑を持つ(写真3)。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆Y字状の模様(写真5)および尾部の斑点が特徴である。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。



写真3 成虫(左:雄, 右:雌 開長:約37mm) 農林水産省HPより



写真4 終齢幼虫 (体長：約40mm)
農林水産省 HP より



写真5 頭部の特徴 (淡色の「逆Y字」紋)

(2) 本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。本種の分布地域は、北米～南米、アフリカ (エジプト、サハラ以南)、アジア (インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど)、オセアニア (オーストラリア) である。

(3) これまでのところ、国内で発生が確認された農作物は主にイネ科作物 (飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ等) である。文献では、イネ科作物の他、アブラナ科 (カブ等)、ウリ科 (キュウリ等)、キク科 (キク等)、ナス科 (トマト、ナス等)、ナデシコ科 (カーネーション)、ヒルガオ科 (サツマイモ等)、マメ科 (ダイズ等) などの広範囲な作物を加害するとされている。

(4) 幼虫が植物の葉、茎、花および果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。幼虫の摂食量が多く、加害部には多量の糞が散在する。

6 防除対策

(1) 現在行っているほ場調査及びほ場巡回を徹底し、早期発見に努める。本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに鳥取県病害虫防除所に連絡する。

(2) 本虫の発生が確認された場合、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、以下に示された薬剤の散布指導を行う。

(農林水産省「ツマジロクサヨトウに関する情報」)

https://www.maff.go.jp/j/syoutan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

(3) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残渣をすき込む。

(お問合せ先) 鳥取県病害虫防除所 (鳥取県農業試験場内) TEL: 0857-53-1345



ホームページ二次元コード

この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.jppn.ne.jp/tottori/> です。